

日本パラ陸上競技選手権大会の同行援護と競技中の支援で 神戸に行ってきました！

佐伯典彦



マラソンの伴走をして、ちょうど30年になりました。しかし、昨年12月から坐骨神経痛になり、若い視覚障害者の大会伴走は難しくなりました。だったら、視覚障害者のマラソン大会や練習に同行援護くらいはできるんじゃないかと4月に思い立って、5月に生まれ故郷である、大阪府豊中市に同行援護の研修を受けに行ってきました。5月25日に無事終了。三重県津市の盲ろうの障害者のマラソン伴走支援をしている仲間に、研修終わったよ、と連絡したら、仲間の知り合いから、何とみだしの大会に同行支援してほしいと早々に依頼がくる。三重県津市の一般社団法人みえのパラスポーツ代表、まだ34歳のSさんと私が住む三重県名張市で6月1日にお話しをしました。Sさんは、元やり投げの選手で国体にも出場したそうです。普通に会社員をしていましたが、パラスポーツに魅了され、会社を辞めてパラの選手を支援していたのですが、正式に団体を立ち上げ、三重県のパリのパラリンピック出場を狙う選手の支援を始めたばかり。勤め先からは、障害者のスポーツ支援に限ってならやっぴいよと言っただけでした。だから私は、同行援護登録者第1号！

今回の依頼は、三重県四日市市在住の57歳の視覚障害者Yさんの会場までの同行援護

と砲丸投げ競技中のガイド。Yさんは高校の時バスケットボールをしていて、実業団にも誘われるレベルだったそうです。建築会社の社長をしていた44歳の時失明。障害者スポーツの練習会に参加したことがきっかけで、パラの砲丸投げの選手になる。今は三重盲学校専攻科で鍼灸あんまマッサージ師資格取得のため勉強中。昨年の幻の三重国体、今年の栃木国体の全国障害者スポーツ大会の三重県代表に選抜されています。この同行援護、障害者スポーツに理解がないとできない特殊なケースです。

Sさんは当初Yさんと、津市→四日市市→名古屋まで近鉄電車、名古屋→新神戸は新幹線、新神戸→神戸ユニバー陸上競技場まで神戸市地下鉄で行くルートを考えていたのですが、三重県名張市の佐伯が同行援護することになったので、四日市市→津市→名張市→大阪難波まで近鉄電車。大阪難波→神戸ユニバー陸上競技場まで、阪神電車・山陽電鉄・地下鉄で行くルートを提案し変更（実は佐伯はプチ鉄。近鉄電車名古屋⇄山陽電鉄兵庫県の姫路までは、改札口を1回も出ずに行けるんです）。移動介助・声かけは、過去の経験でバッチリ！

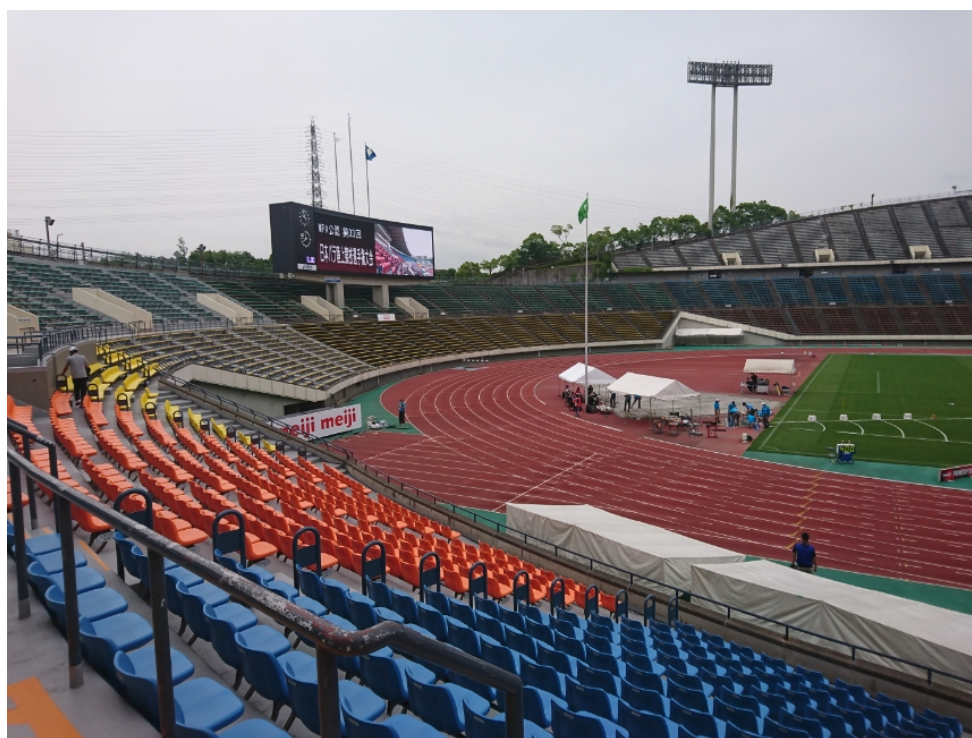
ここまでは、今までの視覚障害者の大会支援で慣れているのですが、なにせパラの砲丸投げのルールが分からない。付け焼刃で学びました。大会自体は、2010年千葉国体の全国障害者スポーツ大会の伴走経験ではほぼ同じ雰囲気。観客席以外は、写真のタグを首にかけていないと入れません。違うのは、東京パラリンピックのメダリストもバカスカ出場している選手レベルの高さ。

日本パラ陸上競技連盟の会長は、テレビでおなじみ、元マラソン選手でマラソン・駅伝のスポーツコメンテーターの増田明美さんです。増田さんは30年前、栃木県宇都宮市の専門学校副校長の時、講演会講師として招聘した時お会いしました。みえパラスポーツのSさんと3人でちゃっかり写真。



障害者のクラス分けでよく「T11」とかいう表現がされます。この T はトラック競技、円盤投げや砲丸投げ等のフィールド競技は f。次の 1 は視覚障害者、次の 1 は視覚障がい
の度合い。1 は全盲。3 なら視覚障害が軽い。「T13」の選手の 100m 走のトップは、普通
にオリンピックに出場できるくらいレベルが高い。今回の Y さんは「f 11」の区分になり
ます。

11:45 砲丸投げ選手招集。選手は全部で 17 人。100m 走等は、参加者が多いので、ク
ラス別に走ります（T11 の部、義足なら膝下からの選手や、足の付け根からの選手という
具合）。しかし、砲丸投げは今回ごちゃまぜ。視覚障害者、下肢の障害、上肢の障害、高
次機能障害、義足の選手…。各クラス 3 人以下の参加だったので、投げれば誰もが入賞。
視覚障害者はまず両目にアイパッチを貼る。その上にアイマスクをつける。競技終了まで
外してはいけない。競技場に入る前に、ランニングシャツ以外の上着やカバンにアシック
ス等の企業ロゴが入っていたら、ガムテープで隠す。靴下にミズノのロゴが入っていたら
めくって隠す。今回明治乳業がスポンサーだったので、アクエリアスの飲料を持ちこむの
なら、ラベルを剥がす…。これは、全国障害者スポーツ大会や国体も同様です。選手は 14
人しか集まっていない。何故？



会場の写真を見てください。トラックの第 2 コーナーで円盤投げをし、写真の通り、砲
丸投げは第 4 コーナーで行いました。テントは選手控え場所。私は Y さんの通告がある
と、砲丸投げを投げるサークルまで Y さんを移動介助。まず 7.26 kg の砲丸（オリンピッ

選手と同じ大きさ・重さ)を手渡す。重さは同じだが、少し小さめと大きめの砲丸があり、選んでもらう。次にサークル内にYさんを誘導。視覚障害者のガイドのみ、サークルに入ってよい。サークルの前半分は、高さ10cmのコンクリート作りになっている。左足をクロックポジションの10時の位置、右足を2時の位置に足のつま先をあてる。次に軸足の左足のつま先を12時の位置にあてる。それからガイドはサークルを出る。その後、(右手で)しっかりためて!(ためを作って)、フアイト!と声をかけYさんは投げる。終わったらサークルに入って控えテントまで移動介助する。控えテントはトラックと1mしか離れていない。視覚障害者以外の選手はテント内を通過して、砲丸投げをするサークルまで移動できますが、視覚障害者はこの1mのスペースを通過してサークルまで移動するしかない。しかも、400m走以上の競技は同時進行なので、この1m横を選手が走ってくる。圧巻だったのは、車いす5000mの選手が高速で走り抜けていくので危険!Yさんには、今どんな競技をしているの?どんな風に選手が競っているのと質問され、答えなければならない。電光掲示板は、各競技の結果が適宜表示されるが、Yさんに、今自分は何メートル投げて何位と聞かれるのですが、いつ砲丸投げの掲示がされるのかが分からないので、よく見ていないと答えられない。砲丸投げは、予選3投、決勝3投するのですが、それまでの一番いい記録が表示されていく。途中で、円盤投げを終えた選手2人が合流したり、100m走の義足の選手が合流したりは、パラ競技ならではの(複数競技を兼ねて出場している)。後から来た選手が不利にならないように、競技役員が例えば全員2投した後、その都度投げる順番を変えていく。だからYさんも、次何番目に投げるんですかと聞かれても答えられない(これも他の選手に聞いて教わりました)。おまけにトラック競技用の音楽がガンガンなっているので、競技役員の通告も聞こえにくい…。

そんなこんなで3時間。フィールドを1歩も出ることなく、無事競技は終了。本当にくたくたでした。

みえのパラスポーツの記事をホームページで覗いてみてください。今回三重県や日本パラの、パリパラリンピック強化指定選手の義足の3選手の記事や写真がたくさん載っています。そんなすごい選手と佐伯が2日間一緒に過ごせたことは、本当にありがたいご縁でした。今後の再会の機会、わくわくドキドキです!

(さえきのりひこ。居宅介護支援事業所ハッピーウッド 主任介護支援専門員)